

平成31年度学校経営計画

平成31年度～平成33年度

校番	24	学校名	広島県立賀茂高等学校	校長氏名	大石 秀邦	定時制	本校
----	----	-----	------------	------	-------	-----	----

【育てたい生徒像】

本校定時制課程で学ぶことにより自己指導能力を身に付け、自他を大切にしつつ生涯を通じて夢の実現にチャレンジできる生徒

1 ミッション(地域社会における自校の使命)

東広島市地域で唯一の夜間定時制高校として地域から信頼されその必要性が維持される。また、社会人として自立するための人間力を育み、地域社会の持続的発展を担う人材を育成する。

2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

- (1) 社会で求められる基礎学力を身に付けさせるとともに、規範意識を育む指導体制が確立されている学校
- (2) 働くことを通じて自らの将来を設計しようとする態度を身に付けさせるとともに、自己決定能力を育む取組が体系的に実践される学校
- (3) コミュニケーション能力を高め、積極的に他者との関係を形成しようとする態度を身に付けさせるとともに自己肯定感を育むための活動が多彩に展開される学校

3 環境分析

項目	数量的分析
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導・進路指導における組織的な指導体制が確立されるとともに、個に応じた指導の充実が図られており、全員が希望する進路決定を行っている。 ○職業観・勤労観や社会人としてのマナーを教わるために、地域の社会人に特別非常勤講師をお願いしたり、地域文化を担う団体等、様々な分野で活躍する人材を招聘して多彩な教育内容の創造に取り組んでいる。同様の取組はこれまで長年にわたり継続しており、本校の特色ある取組として定着してきた。
教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ○毎年、公開研究授業を実施している。この取組は授業者、観察者の授業へフィードバックされる取組として定着した。また、互研授業を実施し、授業改善へ向けて一歩前進した。 ○平成30年12月に実施した生徒アンケートにおいて、「学校生活に満足しているか」という項目に対して肯定的な回答をした生徒の割合が 87.5 % (昨年88.9%)であった。 ○「授業がわかる」という項目に対して肯定的な回答をした生徒の割合が80.4%であった。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、生徒の状況の早期把握と生徒とのコミュニケーションを図ること、生徒指導においては一定の成果を上げている。 ○薬物乱用防止教室を実施するなど、喫煙防止や薬物使用の危険性についての意識高揚に取り組んでいる。 ○犯罪防止教室を実施するなど、携帯電話やスマートフォン、インターネットに潜む危険性について生徒の意識を高めるよう取り組んでいる。 ○健康教育の一環として「性」教育に取組み、生徒の健康に対する自己管理能力の醸成を図っている。 ○生徒と生徒、生徒と教員の共感的人間関係の構築に努めることにより、休転退学者の全体に占める割合が10%程度で推移している。(6名/60名) ○綿密な保護者連携や個人出欠状況票の送付等、全体で組織的に取り組むことにより、授業遅刻者の割合が10%未満に減少している。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○毎年、新入生歓迎集会やスポーツ大会など学年を越えた生徒交流の機会を持っている。この3年間は「食」の機会を取り入れた生徒交流会も実施している。 ○部活動については、陸上競技部が、平成30年度の全国大会出場を果たした。限られたクラブ数や参加者数ではあるが、毎年、地区大会、県大会で活躍している。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○「ハローワーク月間」の実施など、生徒の就労を学校体制として支援したが、就労率は65%にとどまった。 ○生徒の企業見学や複数回の面接指導の実施により、就職については100%の決定率を達成した。 ○職業理解の進路説明会、卒業生・就職支援専門員・ハローワーク職員等による勤労観育成講座、キャリアコンサルタントによる就職ガイダンス等を実施し、勤労観・職業観の育成に効果をあげている。 ○資格取得の意義をPRし、受検者数は目標値に到達した。

4 目標の設定

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値	目標値			担当部等
		H30	H31	H32	H33	
1 社会で求められる基礎学力を身に付けさせるとともに、規範意識を育む指導体制が確立された学校						
授業規律を確立し、基礎学力を定着させる	年間登校率(%)	93.4	95	95	95	教務部
	生徒アンケートにおいて「授業がわかる」と回答した生徒の割合(肯定的回答)(%) (12月アンケート)	80.4	80	82	85	
基本的な生活習慣を確立し、健康で安全な生活を尊重する態度を育てる	生徒アンケートにおいて「授業時以外の学校生活において挨拶をしている」と回答した生徒の割合(肯定的回答)(%) (12月アンケート)	88.0	85	90	90	生徒指導部
	授業遅刻者の割合(%) (1限遅刻者総数/全生徒総授業日数)	9.8	10未満	8未満	5未満	
	休退学者の割合(%)	10	10未満	10未満	8未満	
	健康、安全についての講演会に対する生徒の理解度(事後アンケートによる全講演会平均)(%)	88.2	90	90	90	
2 働くことを通して自らの将来を設計しようとする態度を身に付けさせるとともに、自己決定能力を育む取組が体系的に実践される学校						
自らの将来を設計しようとする態度や進路を決定する能力を育てる	卒業年次生の進路決定率(%)	100	100	100	100	進路指導部
	検定試験のべ受検者数(名)	16	15	15	15	
職業観・勤労観の確立を通して、社会に貢献しようとする態度を育てる	就労率(%) (在学生中仕事に就いている生徒の割合) (2月調査)	65.0	70	70	70	
	学校生活アンケートにおいて「個別面談は有用である」と回答した生徒の割合(肯定的評価)(%) (12月アンケート)	81.1	80	80	85	
	進路説明会、勤労観育成講座に対する肯定的回答(事後アンケートによる 全講座平均)(%)	89.3	90	90	90	
3 コミュニケーション能力を高め、積極的に他者との関係を形成しようとする態度を身に付けさせるとともに、自己肯定感を育むための活動が多彩に展開される学校						
地域文化や異文化の理解を通して、人とのつながりを持つようとする態度を育てる	地域文化、国際理解、人権等に関する講演会や行事が自分の成長に有用であると回答した生徒の割合(肯定的評価)(%) (事後アンケート)	93.7	90	90	90	総務企画部
他者との関係を形成し協調しようとする態度やそのための技能を育てる	生徒アンケートにおいて、「自分が成長するためには、周囲にいる人との協調や協力が必要である」と回答した生徒の割合(肯定的回答)(%) (12月アンケート)	92.5	90	90	90	全体
	生徒アンケートにおいて「自分の長所やよさを理解できてきた」と回答した生徒の割合(肯定的回答)(%) (12月アンケート)	79.6	75	75	80	
生徒と向き合う時間の確保を目的とした業務改善を学校全体で取り組んでいる	業務改善の取組を学校全体で取り組み、生徒と向き合う時間の確保ができていると回答した職員の割合(職員アンケート)	77.8	80	80	85	各部主任 管理職

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 社会で求められる基礎学力を身に付けさせるとともに、規範意識を育む指導体制が確立された学校			
授業規律を確立し、基礎学力が定着している	興味・関心を引き出す授業づくりと声かけによる信頼感の醸成により、年間登校率を上げる。	興味・関心を引き出す授業づくりと声かけによる信頼感の醸成を継続する。生徒が安心して様々な相談ができる場を提供することにより年間登校率を上げる。	教務部
	授業規律及び授業への心構えを確立させるため、始業時・終業時の挨拶、始業時の黙想や不必要物を机の上に置かない指導を継続する。また、学習課題の明示や本時の振り返りを全教科で取り組む。基礎学力を定着させるため、わかりやすい授業づくりと生徒の学習意欲を高揚させる取組を行う。 ①生徒が作業や活動を行う授業づくり ②わかりやすいプリントづくり ③ICTを活用した授業づくりを進める。	授業規律の確立を継続するとともに、生徒自らが課題を発見し、その解決に向けて探究するような授業づくりや発問の工夫等により生徒自らが思考・判断し、自己表現できる場面の設定を進める。	
	義務教育課程の学び直しを行い、生徒が高校の学習内容を理解しやすくする。また、学習内容を整理したプリントを丁寧に整理させることにより、わかる授業を構築する。	生徒にとってわかりやすい授業を展開するため、授業展開や教材プリントの改善を組織的に進めることで、生徒の学習意欲の高揚を図り、わかる授業を構築する。	
基本的な生活習慣、健康で安全な生活を尊重する態度を育てる	校門指導を実施し、挨拶の励行を指導する。この際、教職員からも積極的に挨拶、声掛けをする。	授業の開始、終了時及び校門指導時だけでなく日常的に校内で挨拶ができる習慣をつける。	生徒指導部
	毎日の校門指導の中で、生徒の変化の早期把握に努めるとともに、生徒に対して声をかけ、学校への登校を促し、1時間目の授業への遅刻を減少させる。	校門指導を継続し、生徒との人間関係を構築する。生徒が授業や行事の中で成長を感じ取れるように働きかけることにより、1時間目の授業への遅刻をなくしていく。	
	生徒との面談を組織的に行い、その情報を教員全員で共有しながら、学校へ定着できるように指導する。	個々の生徒が授業や行事等の中で肯定的評価がなされるように取組むことにより、学校へ定着できるように指導する。	
	外部講師を招いての規範意識向上のための講演会や薬物乱用防止教室、健康や性に関する講演会を実施する。有益な内容とするため講師との打ち合わせを綿密に行う。	全体集会やLHR等を活用して、集団や社会における個人の果たすべき役割や義務を理解させる取組を工夫する。事後アンケートの結果などを参考にしてより理解できるように改善を図る。	

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
2 働くことを通して自らの将来を設計しようとする態度を身に付けさせるとともに、自己決定能力を育む取組が体系的に実践される学校			
自らの将来を設計しようとする態度や進路を決定する能力を育てる	卒業年次の進路決定率を100%にするために、適性検査等を実施し、自らの進路適性を考えさせる。また、職場見学や体験実習、インターンシップを実施し、職業について深く考えさせるようにする。進学希望者には、オープンキャンパスや進路相談会などに参加するように指導する。	卒業後の離職率を下げるために、就職先への訪問と卒業生への指導を行い、企業への信頼を得るとともに、安定した求人が得られるようにする。また、就職支援教員とともに、新規求人企業を開拓していく。就職に向けての模擬面接などによる指導を丁寧に行う。	進路指導部
	各検定試験の意義を積極的にPRし受検者を募る取組みを行い、関係各教科と連携して事前指導を強化する。	各検定試験の意義を積極的にPRし受検者を募る取組みを継続するとともに、検定に合格することによる自己肯定感が得られるようにする。	
職業観・勤労観の確立を通して、社会に貢献しようとする態度を育てる	就労率を上げるために、個別面談及び「ハローワークへ行こう」月間を実施する。	就労率を上げるために、個別面談及び「ハローワークへ行こう」月間を継続して実施する。就労体験をもたせることにより、自己の適性と仕事に対する理解を図る。	進路指導部
	学期に1回、面接週間を設定し、個人面談を通して生徒の課題を明らかにし、就職・進学指導に生かしていく。	学期に1回、面接週間を設定し、個人面談を通して生徒の課題を明らかにし、就職・進学指導に生かしていく。	
	企業の採用担当者等の外部講師や卒業生を講師として招聘し、また県の事業も活用しながら、進路説明会及び勤労観育成講座を実施する。講師との事前の打合せを綿密に行い、生徒実態に合った内容にする。	低学年次より職業・勤労についての講演会等を実施し、段階的に職業観・勤労観を確かなものにしていく。地元企業の採用担当者の講師の招聘や希望の多い業種からの講師の招聘を行う。事後アンケートを集約し、この後の説明会や講座の改善につなげる。	

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
3 コミュニケーション能力を高め、積極的に他者との関係を形成しようとする態度を身に付けさせるとともに、自己肯定感を育むための活動が多彩に展開される学校			
地域文化や異文化の理解を通して、人とのつながりを持つようとする態度を育てる	地域文化や異文化等を理解し、実社会との繋がりを重視した体験的な学びを進める。そのために、地域文化、国際理解、人権、平等に関する講演会や行事を行う。また、これらの様子を学校内外に知らせ、地域や保護者等の協力を得るためにホームページの更新と新聞の発行を行う。	地域文化や異文化等を理解等の企画を継続して実施する。地元や国内関係機関を連携しながら、講演会や交流会を継続的に実施する。 外国籍生徒が日本の文化を理解し、自国の文化を発信できるような環境づくりを進めていく。 生徒会執行部の活動を活発にする。定時制後援会や同窓会と連携し、生徒の活動について支援を得ていく。	総務企画部
他者との関係を形成し協調しようとする態度やそのための技能を育てる	自分が成長するために、周囲にいる人との協調や協力が必要であることを意識させるために、グループワークを取り入れたりや話し合ったり発表したりする等、多様な活動を取り入れた授業づくりを行う。また、課題発見と解決学習を進める。	授業や行事の中で周囲にいる人との協調や協力を必要とする内容を取り入れた活動を継続して実施する。また、生徒会活動や部活動を活性化し、協調や協力により、物事を成し遂げた達成感を得られるようにする。	全体
	学習、行事や部活動等において、生徒が主体的に活躍できる場をつくることにより、自己肯定感を育む。	仕事を持ちながら学習を行うという全日制の学校で得ることができない経験していることに誇りを持たせるようにする。すべての生徒が自分の長所を複数あげて、自らの言葉で説明できるようにする。	
生徒と向き合う時間の確保を目的とした業務改善を学校全体で取り組んでいる	サーバ内のファイルやフォルダーの整理するとともに情報の共有を図りながら、個々の教職員が可能な業務改善を行い、生徒と向き合う時間が確保できるようにする。	業務改善における情報を全体で共有し、学校組織としての業務改善を進め、生徒と向き合う時間が確保できるようにする。	各部主任 管理職